



民法 正則 議員

Q 熊野版ライドシェアの導入を

A 町 長

ライドシェア等の新たな運行方法も検討する必要を感じている。

【Q 1】

タクシー不足を認識し、その対策はどのように考えているか。

【A 1】

町内での夜間のタクシーの利用のニーズがほとんどないような状況となっていると把握しているが、本町として対策を講じることは、現状では難しいと考えている。

【Q 2】

運転免許証の返納状況は。

【A 2】

令和3年95人、令和4年71人、令和5年92人の返納があった。

【Q 3】

今後、矢野駅までのフィーダー路線が、重要な公共交通となるのではないか。

【A 3】

矢野駅までのフィーダー路線は、重要な公共交通である。今後、乗り継ぎ場所から次の乗り継ぎ場所という公共交通が主流となると思われる。

【Q 4】

最終便で営業所まで帰れば、町内一円をライドシェアなどを活用した運行ができないか。

【A 4】

現時点ではタクシーを使っの熊野営業所での乗り継ぎは難しいと考える。路線バス事業者へ要望事項として考える。

Q 軟骨伝導イヤホンの設置を

A 町 長

調査・研究していく。

【Q 1】

役場窓口では耳が聞こえにくい人のための配慮がなされているのか。

【A 1】

耳マークを設置し、筆談や大きめの声で話すなどの対応を行っている。

【Q 2】

大きな声で話すことで、個人情報もれることを心配される方もいるが。

【A 2】

やむを得ないのが現状である。

【Q 3】

耳の軟骨を振動させて音声を伝える、軟骨伝導イヤホンの設置をしていただきたいが。

【A 3】

耳穴をふさがずに音を拾えるため、痛みや音漏れが少なく、イヤホンに凹凸がなく衛生的であると聞いている。既に利用している自治体の使用例や利便性等について、調査研究していく。



▲軟骨伝導イヤホン（イメージ）

Q 役場の防災体制の強化を

A 住民生活部長

防災安全課に危機管理専門員を配置している。

【Q 1】

住民の命を守るため、発災後の初動対応について訓練が必要ではないか。

【A 1】

避難所班については、毎年度当初にシュミレーションを実施しているが、その他の訓練については今後、実施していく方向で検討する。

【Q 2】

避難所の受付について、住民自らが氏名や住所を手書きする方式では、時間を要する上、職員が避難者名簿を作成する際に、転記を誤る可能性が高く、住民にも職員にも負担になる。

宮城県では、マイナンバーカードの情報を記録した身分証アプリを活用し、避難所に設置された二次元コードを読み取るだけで受付ができるため、100人が参加した避難訓練で

受付が2分強で完了したとのこと。熊野町でも活用していただきたいが。

【A 2】

早い段階でマイナンバーを使った訓練、避難所の開設を目指していく。



Q 中学校の部活動の地域移行は

A 教育長

部活動を持続可能なものにするには、改革に取り組む必要があり、今後も国や県、他市町の動向を注視する。

【Q 1】

町内の中学校のクラブでは、以前から外部指導者を活用されているが、外部指導者の人数と予算は。

【A 1】

どういった外部指導者が必要か、両中学校に聴取した上で、計6人を配置している。

内訳としては、熊野中学校には、ソフトテニス部、茶華道部、陸上部、東中学校には、サッカー部、柔道部、書道部に配置しており、令和6年度の予算は19,072千円を計上している。

【Q 2】

今後、休日はすべての部活動において、教員は一切関わることはないのか。

【A 2】

正式に、学校部活動の地域連携への移行をし

た場合には、指導者の確保等の観点から、指導を希望する教員が、休日に地域の指導者「部活動指導員」として活動できるよう、兼職兼業の許可の手続きをすれば指導は可能である。

【Q 3】

町内には、各クラブで休日の指導を担う人材は十分いるのか。競技種目によっては人材が足りない場合はどう対応するのか。

【A 3】

現状では、休日の部活動の指導を担う、地域の指導者「部活動指導員」は、不足しているものと認識している。

各競技団体やスポーツ少年団の指導者とのマッチングなど交渉する場を設けたり、新たな募集等により「部活動指導員」を確保していきたい。